

みなみさんりく 議会だより



No. 61

令和3年5月15日発行

特集

令和3年度当初予算

P2

- 行政組織も改編・縮小 ————— 〈議案審議〉 P 6
- 復興事業の現状を確認 ————— 〈特別委員会〉 P 6
- 21事業、130億円あまり繰越 ————— 〈補正予算〉 P 8
- 4月から通年会期導入 ————— 〈特別委員会〉 P 9
- 損害賠償請求和解へ ————— 〈特別委員会〉 P 9
- 1.2.3月定例会・臨時会 ————— 〈議案一覧〉 P10
- ここが聞きたい 9人登壇 ————— 〈一般質問〉 P12
- 議会へのお願い ————— 〈請願書〉 P21
- まちづくりへの提言 ————— 〈委員会報告〉 P22

《表紙》八幡川河口付近の河川堤防
工事の様子
大規模な復興事業も最終盤

震災11年目 予算規模大幅縮小



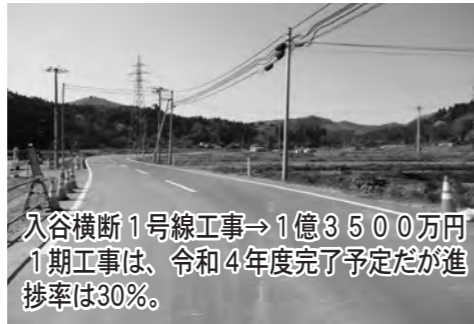
スクールバス運行費→1億2200万円
児童生徒の安心安全通学のため12路線に。



道の駅・伝承施設→9000万円
震災アート制作・展示制作委託料など。



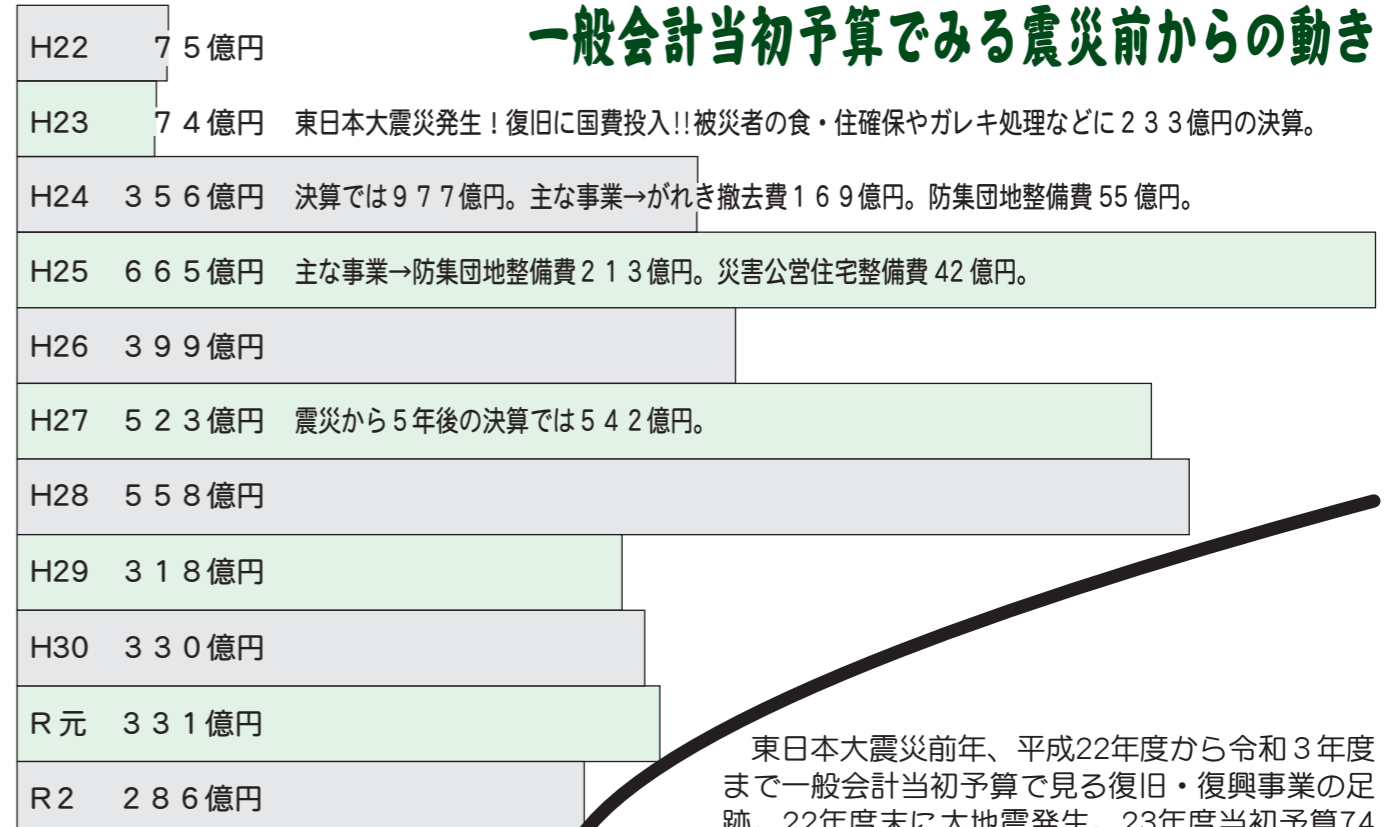
防潮堤工事→約14億3500万円
12漁港海岸線防潮堤工事などに。



入谷横断1号線工事→1億3500万円
1期工事は、令和4年度完了予定だが進捗率は30%。

こんな事業に使われます

令和3年3月定例会は2日から22日まで開催されました。令和3年度当初予算審査特別委員会を設置し、慎重な審査の結果、一般会計予算・特別会計予算ともに可決すべきものとして報告、本会案どおり可決されました。



令和3年度 一般会計当初予算
122億5000万円 (前年度比 - 57.11%)

特別会計

会計区分	予算額	前年比
国民健康保険特別会計	20億2,000万円	+5.1% (9,800万円)
後期高齢者医療特別会計	1億4,700万円	+8.9% (1,200万円)
介護保険特別会計	16億円	+0.1% (150万円)
市場事業特別会計	4,500万円	+27.1% (960万円)
漁業集落排水事業特別会計	1,700万円	-19.0% (400万円)
公共下水道事業特別会計	1億1,540万円	-38.3% (7,160万円)
水道事業会計	11億0,173万円	-42.7% (8億2,147万円)
病院事業会計	20億9,509万円	-3.9% (8,507万円)
訪問看護ステーション事業会計	5,200万円	+8.3% (400万円)



施政方針4つの柱

被災者の状況に応じ心のケアなどに取り組む。

東日本大震災からの復旧復興事業の終幕

地域資源を活かした効果的な情報発信。

交流・関係人口の拡大

ラムサールを活かし、観光業、農林水産業を振興。

産業の振興

「参加」や「協働」でのまちづくりで地域課題を解決。

住民が輝けるまちづくり

総括的質疑

問 (後藤伸太郎議員) 住民との協働は大事だが、人に任せる、人を育てるというところは役場職員が苦手とするところなので。

答 そう苦手とは感じていない。地域の団体からも、たまには会議に顔を出してと気さくに頼まれたりもする。これからは職員一同知恵を絞り、不断の努力で困難を乗り越えていく。

問 (千葉伸孝議員) 高齢者が輝けるまちづくりとして「シルバー人材センター」が再開されるが。

答 お年寄りが光り輝く、夢や目標を持ち、趣味を活かして楽しい毎日を暮らすことである。シルバースタッフの再開で一人一人の再興が期待できる。シルバースタッフの再開で、生きがいが見えてきた。

問 (今野雄紀議員) 行政は継続が大事だが時代の流れの先を見ることが大切だ。復興予算が減り厳しい財政運営の中で4本

柱を掲げたが新しい発想で予算化したのは。

答 町としてやらなければいけないものは、2年半前登録の「ラムサール」だ。日本の志津川湾が世界の志津川湾へのチャンスであり、町の大きな財産であるラムサールが展開の柱だ。本腰を入れて交流人口拡大に取り組む。

《一般会計》

歳入

減免終了、コロナ禍：町税の与後は

問（高橋兼次委員）固定資産税が減額見込みだが、今後の推移をどう見る。

答 課税標準額は震災の減免制度が終了したこと

問（後藤伸太郎委員）ラムサールのロゴに使用料を付加し、普及活動の資金源としては。

ラムサール条約ロゴ活用のために

問（後藤伸太郎委員）交付税、伸びを期待？

注目の質疑

問（及川幸子委員）地方交付税が増額されているが今後も伸びるのか。

答 国全体では5%の伸びだが当町では1%。

問（高橋兼次委員）急激な人口減に対しての緩和措置がなくなれば、どうなっていく見通しか。

答 急減補正がなければ30億円を割り込むと試算したが、デジタル推進の予算等で32億円を確保。

問（須藤清孝委員）徒歩通学が増えるが、路線はどれほど減るのか。

答 減るのは1系統だが、往復運行が少なくなるので予算は5,000万円減。安全第一で。

歳出

注目の質疑

乗合バス運賃収入はわずかに割

問（菅原辰雄委員）乗合バス利便性向上のための施策は。

答 利用者が伸び悩み、地域と意見交換の場を設けた。フリー乗車区間を入谷地区でも始める。

防災士資格取得に補助を

問（後藤伸太郎委員）千葉委員長が以前から提案しているが、防災士の資格取得に補助をしては。

答 20名分、124万円を予算措置した。町内の受験者へ講習費用などを補助する。

高校存続へ打つ手は

問（倉橋誠司委員）志津川高校魅力化構想の進み具合は。

答 全国募集を検討中だが最速で令和5年度。学科の新設等はハードルが高い。

障害を持つ方に優しく

問（山内孝樹委員）公共施設の駐車場に障害を持つ方専用のスペースがあるが、出入り口に遠いという声を聞いたが。

注目の質疑

チャレンジ農業支援事業、中山間地域直接支払交付金、もつと使いやすく

問（佐藤正明委員）農業者への支援が手薄では。

答 チャレンジ農業支援はブランド化につながる取り組み等に限る。

問（中山間交付金は勾配の度合いによって格差がある。このままでは離農者が増加するばかりだ。

答 令和2年度から補助割合が減少。台風災害で農地面積も減り600万円減額したため、別項目で300万円を予算措置し、地域で取り組む農業振興に充てる。

注目の質疑

起業・創業支援事業を見直し

問（倉橋誠司委員）減額の理由は。

答 財源の一般財源化に合わせて事業を見直し。全体予算は減少したが補助率は逆に引き上げ、創業支援の講習を受講した場

東北ディスプレイン ションキャンペーンへの対応は

問（後藤伸太郎委員）東北に注目が集まる年になる。どう売り込むか。

答 その矢先のコロナなので難しい状況だが、受け入れ側の気運醸成を図り、ハイシーズンの夏までに体制を整える。

横断1号線は地元の悲願

問（佐藤正明委員）令和4年度をめどに、と進めてきたはず。予算確保に全力を傾けよ。

答 事業費は8億6,000万円だが今年度まで33%しか予算がついていない。交付金配分の調査など最大限の努力をする

名足小、体育館と駐車場を整備

問（高橋兼次委員）体育館の建て替えと併せ、狭い駐車場を拡大しては。

答 体育館は新年度に実施設計。現在の7割ほどの規模に。駐車場は20台分を確保予定だが、地域から土地の提供があるなら協議させてほしい。

注目の質疑

震災伝承施設のアート制作に3千万円

問（倉橋誠司委員）著名な作家に高額でアート制作を依頼する理由は。

答 観光客に震災を学んでもらう前に、思考を整理する必要がある。そのためアート。制作するボルタンスキー氏は日本にも縁が深く、当町にも来たことがある。

問（後藤伸太郎委員）アートが必要だと町民が言い出したことはない。なぜそこに大金をかけるのか、理解を得る努力がもつと必要だと思うが。

答 説明会の資料が良くなかった。差別化を図りながらも奇をてらわず、震災を学べる施設にする。

《特別会計》

注目の質疑

健康無関心層を少なく

問（今野雄紀委員）健康づくりのための予算は十分か。

答 60歳を境に負担額より医療費が増大。70歳74歳では、負担額19万円に対し医療費が60万円。健康で長生きするために健康無関心層（アンケートでは全町民の6割）へアプローチし、健康増進を図る事業は重要。

介護用の紙オムツ支給もつと幅広く

問（及川幸子委員）必要な世帯全てに支給しては。低所得者も含めた全体から集めた保険料からの支給なので、非課税世帯に限定する。

水源に防犯灯を

問（村岡賢一委員）戸倉水源の取水施設に防犯灯がなく真つ暗だが。

答 立入禁止の表示で対応しているが、今後必要性を検討する。

コロナによる受診控えをどう見るか

問（星喜美男委員）受診控えの状況は。

答 外来で4千名減。必要な人に医療が提供される、ある意味理想的状況。それで経営が立ち行かないというのは制度に問題があるのでは。

行政組織も改編・縮小

会計課新設 教育2課を一本化

効率的な組織運営を図るため本庁の行政組織を見直す。会計課を設置し、教育総務課と生涯学習課は教育委員会事務局に一本化。

問 (千葉伸孝議員) 建設課と上下水道事業所の第二庁舎はどうなる。

答 令和3年度中に解体いづれも本庁舎とケアセンターに移動検討中。

問 (今野雄紀議員) 教育委員会事務局一本化で、今まで通り業務が可能か。

答 何度も相談しながら検討を重ねている。

職員定数も大幅減

震災後の支援に伴う派遣職員の減少に伴い、病院職員を除く事務職員が241人から39人減少し、新年度202人になる見込み。

問 (及川幸子議員) 会計年度任用職員数の増減は。

答 今年度93人が新年度108人になる予定。

国民健康保険税 応能応益割合見直し 50:50に近づける

所得に応じて負担する割合(応能割)と実際に医療を受ける加入者数に応じて負担する割合(応益割)を国のガイドラインに合わせそれぞれ50%に改正する。

問 (及川幸子議員) 保険料はどうなる。

答 標準保険料率は来年度から下がる。不足分は財政調整基金で賄う。

介護保険料 令和5年度まで据置

給付額等の試算を行った結果、現状の給付水準よりやや伸びるものの、保険料を増額するまでには及ばないと判断され、今後3年間保険料は据え置かれることに。新型コロナウイルス感染症に係る収入減少が見込まれる場合の保険料減免の規定も改正に。

企業版ふるさと納税 基金化して積立

支援しようとする企業からの寄付金を適正に管理し、効果的に運用するため「南三陸町まち・ひと・しごと創生基金」を設置する。法人税軽減も。

問 (及川幸子議員) 基金運用管理の仕方は。

答 対象事業の額面に合わせて寄付額に町の一般財源からも積み立てる。

問 (高橋兼次議員) 直近で適用される事業はあるか。

答 地域再生計画に基づき、就業体験、移住促進、ブランド育成などがある。

被災市街地復興土地区画整理事業基金を廃止

問 (後藤伸太郎議員) 一連の事業終了だが、住民・地権者との軋轢や行き違い、トラブルがあった。まだ解消していない。

たら葉川復旧工事

令和元年台風19号により被害を受けた部分294mにコンクリートブロックによる工事を実施。来年度にかけようやく開始。

問 (佐藤正明議員) 一部で木橋が被害にあったが。

答 残念ながら、構造が不明確とのことで災害復旧事業として認められなかった。別途検討したい。

問 (菅原辰雄議員) 川に面する水田で流出した部分があるか。

答 農地は今回の事業では対象外になる。

神割崎キャンプ場 施設整備し通年営業

オート区画サイト、フリーサイト、キャンプングカーサイト、キャンプ各利用料金も見直し、冬期も営業に。

問 (及川幸子議員) 平成の森キャンプ場との整合性は。

答 料金は改正前と同じ。平成の森には浴場も。

問 (千葉伸孝議員) 対昨年比でどうなる。

答 冬期間に試験的に40日間営業したところ、千人の利用があった。4カ月間営業日が増えるので、利用料収入は増加に。



東日本大震災対策特別委員会

復興事業の現状を確認

震災後10年を目標に進めてきた災害復旧事業ではあったが、防潮堤工事の半数以上が繰り越しとなることから調査を行なった。

大幅な遅れの原因としては、基礎工事の構造改良を余儀なくされたところにあるが、大半は工事を終えている。基礎工事は終えているとはいえず、上部工事に至っては、完成まで2年を要する見込みとなっている。

防潮堤工事を含め、住民との協議を十分に重ねながらも、残ってしまった高台団地の空き区画も調査した。今後は、移住定住策と絡めながら検討を行なっていく。

現地調査



現地では担当者からの説明を受け、質疑応答も行った。

さらに、定例議会の議案審議でも、関連する質疑が行なわれた。

- 田の浦防潮堤** 巨大防潮堤完成まであと2年余り
- ばなな防潮堤** まだ防潮堤の形が見えない漁港も
- 志津川市街地** 低地部の賑わい創出まだまだこれから
- 旧松原公園跡** セットバックの防潮堤干潟守る仕掛けも
- 戸倉団地** 目立つ空き区画移住定住促進が課題

現地調査した工事に関連する議案も審議

田の浦防潮堤 5億4720万円増額し28億7550万円

土地区画整理事業 35億8000万円を減額

問 (及川幸子議員) 現地では大きな防潮堤が建設されていて驚いた。当初からの設計なのか。

答 防潮堤のすぐ背後に道路があるため、当初から壁(特殊堤)タイプで設計。陸間は途中で浮上式のフラップゲートに変更した。

問 (千葉伸孝議員) 低地部にまだ更地が目立つ。町が仲介して利活用を進める考えは。

答 起業誘致もしたい一方、働き手不足でもある。状況を見極めたい。

問 (今野雄紀議員) 減額した分の何割かでも基金化できないか。

答 スキルは高まったと思う。今後他の地域で災害があった場合、恩送りを考えたい。

公職選挙法改正

町長、町議選の公費負担拡大

国の制度改正により、10月に予定されている選挙から町長選、町議選にかかる経費の一部が公費負担になる。選挙カー、ピラ、ポスター費用が公費負担となり、立候補のハードルを下げる狙いがある。ただ、町議選にはこれまでなかった供託金が必要になる。

町議選供託金は15万円

問 (後藤伸太郎議員) お金を使わない選挙をした方が町の財布が痛まないという認識でよいか。

答 その認識でよい。

問 (及川幸子議員) 供託金の没収点は。

答 有効投票数を定数で割った数の10%。概算で、町長選が920票、町議選が70票。

正算 補予 3月定例会

21事業、130億円あまり繰越

総額390億円(通常分113億円、震災分277億円)へ予算補正。ほとんどが年度末における復興交付金の清算。

《一般会計》

汚染牧草処理進捗は

問(今野雄紀議員) 処理委託料が116万円減額になった。処理状況は。答 現在300t弱の汚染牧草がある。進捗率は7%強。来年度は20t処理予定。地元住民の方々の理解を得ながらできるだけ早く行いたい。何年かかってでもやりきる。問(佐藤雄一議員) 処理の際に悪臭発生の苦情があったが。答 来年度は山里離れた場所での処理を行い、放射線と匂いに気を付けたい。

道路に予算つかず

横断1号線新設改良工事、1億円減額に。社会資本整備総合交付金が満額認められず。

問(菅原辰雄議員) 横断1号線は1日でも早く工事をやってほしいが。答 今年度1億3千万円要望したが、600万円しか割り当てがなかった。予算確保に尽力したい。

水産業

働き手の確保を

問(高橋兼次議員) 水産業従業員宿舍整備事業費補助金1千万円が使用されなかったのか。従業員確保の状況は。答 今年度1社から計画はあったが、見合わせに今までに7社から申請があった。本事業は今年度で終了に。外国人実習生は2月現在で111名来ている。コロナ禍で入国困難な状況も。

体育協会所属団体へ補助金減額

問(後藤伸太郎議員) 各団体は存続できるか。答 コロナ禍で公式戦がほとんどできなかった。繰越金での対応も。話し合いをこまめに行う。

《特別会計》

検診のすすめ

問(及川幸子議員) 特定検診、人間ドック、脳ドック減額補正の要因は。答 コロナによる受診控えが原因か。人間ドック50人予定が10人に、脳ドック90人予定が44人しか受診しなかった。健康無関心者も増加か。

市場運営主体は

問(高橋兼次議員) 市場経営委託先選定の流れは。答 県漁連が撤退に。大手参人も検討したが、今は漁協、町、買受人、漁業関係者が一丸となって運営。詳細はこれから。

案議

議審 2月臨時会

台風19号災害復旧工事 天神・たら葉沢など年度繰越して対応

令和元年10月発生の災害査定決定が整い、災害復旧工事の入札結果の12件が報告された。その他、配水管布設、コロナ対策等の合計25件が、町長行政報告され大部分が繰越となる。

コロナ対策予算 不用分を減額補正

今補正は、歳出の減額に合わせ財政調整基金からの繰入金を7千万円減額。

問(倉橋誠司議員) 家賃支援給付金の減額の訳は。答 売り上げ50%減少の事業者者に60万円を45件分の2700万円を計上したが、大部分が国の制度の中で給付となった。

4月から 通年会期導入

試行期間を設け、会議規則の改正等について慎重に協議を重ねてきた結果、4月からの本格的な導入となった。

通年会期のメリット

通年会期を導入する まで以上に強化され、ことで、臨時議会等の委員会の開催、議案の招集手続きがスムーズになる。議会が機能的・機動的に動けることで、監視機能がこれなる。

全員協議会で議会の委任による 専決処分についても議論

専決処分のないこと 得。損害賠償など。が理想としながら、招集するいとまがない場合や軽微な事項に関しては行なってきたのが現状。国の法令改廃に伴う条例の改廃。地方交付税等に係る、基金の繰入れや積立て。毎年度末に行われる国保条例の改正。財産の取

消防防災施設災害復旧補助事業等調査特別委員会

損害賠償請求

和解へ

請求額は1900万円 提示額は80万円

不適切な事務処理で7700万円の補助金を受け取れなかったとして、町が職員を訴えた裁判において、裁判所から和解案が示された。人員不足だった状況や資力なども総合的に勘案され、損害額の約1%、80万円の支払いという内容。秘密会も開かれ慎重な議論が交わされたが、町はこの和解案を受け入れ、和解が成立した。

問(千葉伸孝委員) 労働環境が厳しすぎたのでは。答 震災後、人員が充足している部署はそもそも無い。臨時職員を配置し、本人から大丈夫ですという言葉もあった。

問(今野雄紀委員) 実質的な敗訴では。答 80万円の支払いはあるので本人の責任は認められた。責任を明確にするため司法の手に委ねたもので、勝ち負けということではない。

討論

反対(及川幸子委員) たとえ1%でも支払わせるべきではない。本人は既に退職しており、それで事足りる。訴訟自体が本意で、悪しき前例となるため反対。

反対(今野雄紀委員) 事件というより事故。一人に責任を押し付ける感があり、職員が希望を持って働ける環境でなくなる。このような前例を作ることは絶対反対。

復興工事で傷んだ 町道の舗装を補修

名足線・中山線・蕪の浜線・白松線の総延長で約2.6kmの道路補修工事。

問(及川幸子議員) 災害復興費での整備か。答 復興交付金で整備。

正算 補予 2月臨時会



特別委員会で審査し、少数意見が留保され本会議でも討論採決

起立採決の結果

賛成13人 反対2人

可決

1月臨時議会 議案一覧 1件 (発議1件)

発議	発議第 1号	新型コロナウイルス感染症に関する誹謗中傷等を防止し、互いに支え合って難局を乗り越えるための決議について。
----	--------	--

2月臨時議会 議案一覧 8件 (工事7件、予算1件)

工事	議案第 1号	町道横断1号線外道路・河川災害復旧工事(その2)を(株)阿部藤建設(株)と7,480万円で契約締結。工期令和3年3月まで。→P.8
工事	議案第 2号	町道横断3号線外道路・河川災害復旧工事(その1)を(株)サトー工務店と9,460万円で契約締結。工期令和3年3月まで。→P.8
工事	議案第 3号	町道横断3号線外道路・河川災害復旧工事(その2)を(株)須藤建設と1億1,220万円で契約締結。工期令和3年3月まで。→P.8
工事	議案第 4号	西戸橋橋梁災害復旧工事を(株)阿部伊組と3,628万円増額し、3億6,939万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第 5号	町道名足線外舗装補修工事を日建工業(株)と2,677万円増額し、1億8,077万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。→P.8
工事	議案第 6号	葦浜漁港海岸防潮堤災害復旧等工事を阿部伊・山庄JVと2,351万円増額し、26億6,192万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第 7号	細浦漁港海岸防潮堤災害復旧等工事を渡辺土建・佐千代組JVと1,008万円増額し、34億5,344万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
予算	議案第 8号	令和2年度一般会計補正予算(第8号)。→P.8

3月定例議会 議案一覧 64件

(発議4件、条例14件、工事18件、委託2件、財産4件、予算20件、請願1件、和解1件)

発議	発議第 2号	議会の会期等に関する条例の制定。→P.9
発議	発議第 3号	議会委員会条例の改正。→P.9
発議	発議第 4号	地方自治法第180条第1項の規定による町長の専決処分指定事項について。→P.9
条例	議案第 9号	議会議員及び長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定。→P.7
条例	議案第10号	南三陸町まち・ひと・しごと創生基金条例の制定。→P.7
条例	議案第11号	行政組織条例の改正。→P.6
条例	議案第12号	固定資産評価審査委員会条例の改正。
条例	議案第13号	職員定数条例の改正。→P.6
条例	議案第14号	職員のサービスの宣誓に関する条例の改正。
条例	議案第15号	国民健康保険税条例の改正。→P.6
条例	議案第16号	国民健康保険条例の改正。→P.6
条例	議案第17号	介護保険条例の改正。→P.6
条例	議案第18号	町営住宅条例の改正。
条例	議案第19号	野営場条例の改正。→P.7
条例	議案第20号	定住促進住宅条例の改正。
条例	議案第21号	林業村落センター設置及び管理条例を廃止する条例の制定。
条例	議案第22号	被災市街地復興土地区画整理事業基金条例を廃止する条例の制定。→P.7
工事	議案第23号	たら葉川河川災害復旧工事を(株)遠藤組と1億1,000万円で契約締結。工期令和3年3月まで。→P.7
工事	議案第24号	石浜・ばなな漁港地域水産物供給基盤整備工事を(株)阿部伊組と2億2,660万円で契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第25号	泊浜地区外1地区避難路等整備工事を山庄建設(株)と9,900万円で契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第26号	町道蒲の沢2号線ほか1路線道路改良工事を(株)遠藤組と2,930万円増額し、1億7,395万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。

工事	議案第27号	町道上沢線外道路災害復旧工事を(株)田名部組と59万円増額し、1億314万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第28号	志津川地区(その3)道路災害復旧工事を(株)丸正工業と466万円増額し、1億1,246万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第29号	田浦漁港海岸防潮堤災害復旧等工事を(株)阿部伊組と5億4,720万円増額し、28億7,551万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。→P.7
工事	議案第30号	ばなな漁港海岸防潮堤災害復旧等工事を(株)阿部伊組と3億449万円増額し、31億3,162万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第31号	稲淵漁港海岸防潮堤設置等工事を山庄建設(株)と1,464万円増額し、6億4,641万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第32号	館浜漁港海岸防潮堤設置等工事を山庄建設(株)と732万円増額し、5億7,465万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第33号	寄木漁港海岸防潮堤災害復旧等工事を山庄建設(株)と3,000万円減額し、8億2,145万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第34号	荒砥漁港海岸防潮堤災害復旧等工事を太田組・遠藤組JVと1,206万円減額し、16億1,286万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第35号	折立漁港海岸防潮堤左岸災害復旧等工事を只野組・丸正工業JVと9,943万円増額し、37億7,298万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第36号	水戸辺漁港海岸防潮堤災害復旧等工事を(株)浅野工務店と3,501万円増額し、5億3,103万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第37号	平磯漁港海岸防潮堤設置工事(その2)を(株)佐千代組と166万円減額し、1億7,220万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第38号	長清水漁港海岸防潮堤災害復旧等工事(その2)を(株)浅野工務店と1,258万円増額し、6,090万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第39号	在郷地区外1地区水産関係用地等整備工事を(株)丸正工業と448万円増額し、7,708万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
工事	議案第40号	藤浜地区集落道路等工事を(株)サトー工務店と1,377万円増額し、1億3,477万円で変更契約締結。工期令和3年3月まで。
委託	議案第41号	志津川地区被災市街地復興土地区画整理事業他業務委託を都市再生機構と35億8,572万円減額し、81億6,508万円で変更契約締結。→P.7
委託	議案第42号	南三陸町震災復興記念公園整備事業を都市再生機構と7,593万円減額し、13億6,686万円で変更契約締結。
財産	議案第43~46号	町道路線(伊里前支線・港線・西戸線・竹下線)の認定について。
予算	議案第47~56号	令和2年度最終補正予算。→P.8
予算	議案第57~66号	令和3年度当初予算。→P.2
発議	発議第 5号	議会会議規則の一部を改正する規則制定について。
請願	請願 1の1	御前下地内における水害対策に関する請願書。→P.21
和解	議案第67号	訴訟上の和解について。→P.9

3月臨時議会 議案一覧 2件 (条例1件、予算1件)

条例	議案第68号	指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例等の改正。→P.21
予算	議案第69号	令和2年度一般会計補正予算(第10号)。→P.21

3月定例議会表決状況一覧																		
議員名	結果	賛成	反対	表決結果														
				須藤清孝	倉橋誠司	佐藤雄一	千葉伸孝	後藤伸太郎	佐藤正明	及川幸子	村岡賢一	今野雄紀	高橋兼次	星喜美男	菅原辰雄	山内孝樹	後藤清喜	山内昇一
議案第67号	原案可決	13	2	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○

*表決結果欄：(○)は賛成、(×)は反対。議長は表決に加わりません。賛否同数の場合、裁決します。

高速道時代

歌津北フルインター化と第2の道の駅整備を

町長 令和7年の完成を目指す歌津に道の駅の計画はない



問 歌津北インターの周辺の方で、働く場を気仙沼に持ち、病院通院などでも不便を感じている。早期のフルインター化への取り組みは。

答 昨年6月に県が「宮城県緊急消防支援隊受援計画」を策定し、平成の森が救急消防隊の宿营地として登録され、県の地域防災計画で、気仙沼市内に圏域防災拠点が設定され国土強靱化が図られた事が、フルインター化への動きにつながった。

問 高速道による来町者の推移と観光拡充対策は。

答 観光客の入り込み調査で、約8割を超える来町者が自家用車で三陸道を利用している。平成29年度に改定した観光パンフレットから自動車利用者をターゲットとしたドライブコースの提案イメージ戦略を盛り込んでい

問 気仙沼市の湾岸横断橋の本町への効果は。

答 宮城県内の三陸道12.6kmが整備完了となり、三陸沿岸道は復興道路と位置づけられ、仙台から八戸まで全長35.9kmは令和3年度内に全線開通が見込まれる。

新鮮な海の幸をはじめ、南三陸ブランドの広域輸送が可能となり、周辺自治体との広域連携による更なる交流人口の増加を期待している。

問 令和3年度に測量、設計業務から始まり、令和7年度の全体完成を目指し、国の通常予算での整備となり20億円の事業費を見込んでいます。



歌津北が令和7年にフルインター化へ

問 気仙沼市との共同の観光誘致計画は。

※本文は、原文のとおり掲載しています。

人財育成

町民の福祉向上につながる育成を

町長 若手と並行し管理監督者も育てる

問 10年を節目に、新しい通常業務を形づくるための取組みと課題は。

答 29年、30年度にかけ事務事業を見直し意識付けを行なってきた。若手職員が意欲をもって働ける職場環境の構築が必要。

問 採用時点でのミスマッパは採用しないか。

答 ツチはないか。面接時「公務員の仕事」について確認しているが、合格するための信念は、実際の業務で揺らいでしまうこともある。

問 一つのチームとして思いがたがっていけば、本音を話せる人間関係になる。その様な職場づくりの努力はしている。

問 ここ数年間での、社会人経験者、中間層の採用による環境の変化はみられるか。

答 2年前から管理職会議で考え方を促してきたが、さらに襟を正さなければならぬ。離職に関して本音を言えば、個人の人生設計に与するに



庁舎の印象。見え方はさまざま。



答 本町だけでなく、全国的な現象だ。元々の第一志望が違ったなど様々あるが、職員としての考え方がどういった所にあるか。



早期退職の原因は。

問 公務員の考えは法令順守にある。流行に乗り遅れた法令はなく、後追いで社会に準じている。

問 コミュニケーションの方法は民間の方が長い。存在することで職場の空気を作ってくれていると感じている。

問 庁舎内のイエスマン化はないと思うが、環境改善がなければ育成環境が整わないと考えるが。



気仙沼湾横断橋開通で観光交流拡大へ

産業振興

林業の裾野を広げる取り組みを

町長 自伐型と森林組合で相互補完的役割を果たす



問 森林環境譲与税の使いみちは。

答 森林・林業ビジョンの策定と、台風19号で被災した作業道4カ所の改修をおこなった。それぞれ500万円。

問 集約化も必要だが引き受けられる事業者は少ない。裾野を広げる取り組みが必要だと思うが。

答 ビジョンの策定には現場の声も取り入れられている。町としてバックアップしていく。



町内での自伐型林業研修

問 林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」という使いやすいつい補助金があるが、当町では使えない。なぜか。

答 消極的なわけではないが、合意形成ができるか見極める必要がある。

問 使えるように申請するか検討中。補助金を用意したが使わないという訳にもいかない。

林業家を増やすこと

に効果的な補助金導入に

助け合い 骨髄移植ドナー支援事業導入

町長 ぜひ導入する

林業による移住者の呼び込みも可能では。
問 林業従事者の確保は重要。移住センターを交えて相談に応じていく。
答 初期投資が少なく済む自伐型林業の今後の可能性は。
問 森林組合などの大規模林業と相互補完的な役割を果たすことで、安定的な林業経営がおこなえる可能性が高まる一方、それで食っていきけるかという問題はつきまとう。

もぜひ導入し、環境整備をおこないたい。
問 ドナーを増やすための取り組みは。
答 献血会場に冊子を配置したり、福祉まつりでの啓発などをおこなう。

震災10年

感謝状の贈呈、やり遂げられるか
町長 6月までに完遂したい



啓発活動も重要

問 震災からの復興支援に対して、町長が直接感謝状を渡しているが、コロナによって予定変更になったと思う。やり遂げられるか。
答 今年の3月11日までに全て訪問できる予定だったが、今は中断している。227件中、45件が残っているが、6月議会前までに完遂できる見込み。
問 全国行脚にかかった経費とその効果は。

問 骨髄ドナーへの助成制度が県にある。当町でも助成をしては。
答 県内の1/3の自治体が導入し、入院等で働けない期間に対し最大14万円助成できる。当町で

問 経費がかかること、効果が見えないことに批判もあるかもしれないが、あの日の気持ちを忘れてはいけない。これまでの10年に感謝するとともに、これからの10年のご縁をつなぐことが趣旨のひとつ。当初、候補に挙がった3,000件に対しては、御礼状を届けた。

ワクチン

コロナウイルスワクチン接種対応は

町長 国県や関係機関と連携し、円滑に進めたい

問 コロナ対策の決め手となるワクチン、医療関係者への先行接種は予定通りに進みそうか。

答 国立病院等の医療関係者から開始されているが、すべての医療関係者にはワクチンが供給されるよう県が中心となり接種場所の確保、接種予定者数の把握を行い、準備を進めている。

問 高齢者と基礎疾患のある人はいつ頃接種できるか。

答 早くとも4月以降になる見込みだが、国からワクチンの入荷量が具体的に示されていないので正確な接種時期を示すことは難しい。

問 ワクチンの輸送と保管体制は。
答 3種類のワクチンの

使用が見込まれている。ファイザー社の場合は、マイナス75℃の冷凍庫での保管が必要となり、冷凍庫2台を南三陸病院に設置する。輸送にも複雑な条件があり関係機関と協議を進めることとする。

問 志津川高校南側の町道に平行している農道を組み込むべきでは。

問 2回目の接種を終えるのはいつになるか。

問 無電柱化に対する町の考えは。

問 一般車両と農耕車両の通行の分離を行い、安全を確保している。目的役割が異なる道路を合併した場合、農耕車両の低速走行や路面汚損、路上駐車等が一般車両の妨げになるため、分離は必要。

問 高野会館を周回できる道路を整備すべきでは。

問 歩行者目線と自転車目線の道路整備は。

問 スマートモビリティの導入は。



高齢者集団接種場所 南三陸病院 総合ケアセンター

問 高野会館への来訪者と点在する民有地へのアクセスを目的に復旧されるか。

問 緊急性の高い路線では歩道等の追加整備を検討。今後の交通形態や地域の要望等を伺い財源に照らし整備を検討したい。「宮城サイクルツーリズム協議会」において、観光資源や震災遺構・伝承の活用を目的に自転車利用環境整備の検討を行っている。

問 スマートモビリティは実証事業を検証し本格導入に向けて検討したい。カーシェアリングは来年度の本格運行に向けて準備を進め、実証運行中の入谷林際以外の地域での展開も検討したい。



志津川高校南側の農道と町道

交通政策

道路環境をより良くすべきと考えるが、町長 課題もあるが、検討も

問 災害の激甚化等により必要性が増しているが、課題も多く全国的に進んでいない。国及び県と連携を図り検討したい。

町道整備

横断1号線の完了時期は

町長 早期完了に向け要望活動を行う



国、県に対し財源確保の働きを行っていく。

問 一期の工事区間は秋目川から天神間で、二期工事は小森から秋目川間を計画し、工事は同時完了を計画しているとのことだが進捗は大丈夫か。

答 国、県の交付金が厳しい状況であるが、早期に要望活動を進めていく。用地買収は、ほぼ完了との事、危険箇所の手入れなど、早期に処理する必要があると思う。

問 国、県の交付金が厳しい状況であるが、早期に要望活動を進めていく。

答 買収した立木などは



早期完成を望む横断1号線

工事の中で処理を考え、危険箇所は対応する。

問 ほかの地区内横断線の現状を確認すると、整備が必要な時期だと思う。対策を考えては。

答 国からの交付金を活用し、実施しているところであるが、町に求められる負担割合も増加傾向にあり、計画整備や維持修繕を検討中である。

災害復旧

災害危険区域の対応策は

町長 水害・土砂災害区域への備えは周知徹底を進める

問 近年の異常気象により、土砂災害や濁流で浸水災害などが多く発生している。危険区域内で生活をしている方々がいる事から、周知徹底と、危険区域の対応・対策をどのように考えているか。

問 避難施設は、各公共施設や行政区の公民館を考慮しているが、避難場所までの経路や駐車場などの整備が必要と思うが。



豪雨による土砂災害の危険

答 土砂災害警戒区域は100カ所あり、そのうち92カ所は最も危険と指定されている。今年度末には164カ所の追加指定が予定されている。周知、対応・対策は、警戒避難体制を確立するため、行政区において住民説明会を行い、避難場所や経

問 地域防災計画に掲げる指定条件に照らし、高台の公共施設や地域集会所等、52カ所を指定している。また、経路については、十分な道路幅があることや危険箇所を通行しない経路を基本とし、既存の道路網を避難経路と位置付け、主要道路沿

問 駐車場の対策としての整備は予定してないので、現行の施設の駐車場を活用することとしている。

問 人命・財産の被害を最小化するためにも、対策を考えては。

答 危険区域が広範囲にあり、対応・対策は厳しい状況下である。

問 危険区域が広範囲にあり、対応・対策は厳しい状況下である。

磯焼け対策

町民一丸となり中長期的な取り組みが必要

町長 自然を次世代に残していく大きな責務があり、しっかりと取り組んでいく

問 県が策定した藻場ビジョンを踏まえて、本町が今後取り組まなければならない実効性のある効果的な藻場の保全、再生の考えは。

答 藻場ビジョンは、藻場の回復を図るため、国・県が策定した「磯焼け対策」を中心としたハード・ソフト事業を一体的に取り組み行動計画で本町も海域整備候補地として選定されており、現時点ではウニによる食害

問 藻場の入りしていない砂地に漁礁（コンクリートブロック）を設置し、藻場にいるウニをそこに移して給餌する。

問 藻場の入りしていない砂地に漁礁（コンクリートブロック）を設置し、藻場にいるウニをそこに移して給餌する。

問 藻場の入りしていない砂地に漁礁（コンクリートブロック）を設置し、藻場にいるウニをそこに移して給餌する。

問 以前に提案した施肥ブロックの効果認められているが、これを機会に導入を検討すべきと思

問 以前に提案した施肥ブロックの効果認められているが、これを機会に導入を検討すべきと思

問 以前に提案した施肥ブロックの効果認められているが、これを機会に導入を検討すべきと思



問 以前に提案した施肥ブロックの効果認められているが、これを機会に導入を検討すべきと思



アラメ藻場



ウニの間引き作業

問 漁業者の求める藻場の回復は広範囲な取り組みでありコンブ・アラメ等を養殖し植え付ける取り組みを推奨すべきでは。

問 漁業者の求める藻場の回復は広範囲な取り組みでありコンブ・アラメ等を養殖し植え付ける取り組みを推奨すべきでは。

問 漁業者の求める藻場の回復は広範囲な取り組みでありコンブ・アラメ等を養殖し植え付ける取り組みを推奨すべきでは。

問 全町民参加型の磯焼け対策に対するマニュアルが必要だと思うが。

問 全町民参加型の磯焼け対策に対するマニュアルが必要だと思うが。

問 全町民参加型の磯焼け対策に対するマニュアルが必要だと思うが。

問 地球温暖化の問題は、町民全ての理解と協力が不可欠であり、粘り強い長期的な取り組みが求められる。町が中心となり植林活動を推進すべきでは。ラムサール条約の柱であるワイズユースを後押しする事になる。

問 地球温暖化の問題は、町民全ての理解と協力が不可欠であり、粘り強い長期的な取り組みが求められる。町が中心となり植林活動を推進すべきでは。ラムサール条約の柱であるワイズユースを後押しする事になる。

問 地球温暖化の問題は、町民全ての理解と協力が不可欠であり、粘り強い長期的な取り組みが求められる。町が中心となり植林活動を推進すべきでは。ラムサール条約の柱であるワイズユースを後押しする事になる。

健康増進

パークゴルフでコミュニティスポーツの推進を

町長 最低限の条件でも一定の面積の確保が困難



問 パークゴルフは高齢化社会での健康増進、生きがいづくりが可能では

答 クラブ1本とボール1個で、誰でも楽しめる親しみやすいスポーツだ。ここ数年ブームとなり競



充分広いようだけど

技人口は年々増加傾向にある。幅広い年代が楽しみながら歩くことができ、体力向上、健康増進につながる。

問 旧松原公園、入谷ひこりの里、歌津商店街付近、田束山、旧戸倉小跡地付近、旧戸倉中グラ

ン、神割崎など有効活用できないか。

答 18ホールで2ha必要で、それ以外にも駐車場、クラブハウスの分も必要だ。気仙沼のコースは4haある。旧戸倉小付近は、1.5haしかない。神割

崎キャンプ場なら2〜3haとれるが、大会が開けるコースにするには造成が必要だ。県内に30カ所あり、認定されているコースは13カ所ある。それも皆、近隣にある。地元

に作ってほしいという人などできないか。

答 他市町村の公の施設を個人的に利用した時の補助は、他のスポーツとの公平性からも困難だ。

問 公民館行事として、パークゴルフ体験ツアーなどできないか。

答 できないわけではない。



もっと広いところで歩き回ってほしい

総合戦略

第2期総合戦略の考えは

町長 活力ある地域社会維持のため計画達成へ

問 第1期総合戦略を作成し実現に取り組んできたが、成果と課題は。

答 毎年度、客観的な検証を行い、14施策29事業に取り組んできた。社会環境の変化などでKPI

評価では半分未満の達成である。

問 目標達成の主な事業は。

答 1期の婚活支援事業はイベント色が強く、カップル成立をゴールとして10件のカップルが成立した。

問 主な未達成事業と、その要因と見直しは。

答 交流人口拡大、空き家バンク制度などである。ターゲットの絞り込みが必要であった。コロナ禍

で地方移住の風が吹いており活用に向け進む。

問 2期の取り組みについてのは。

答 計画目標達成のため進む。婚活支援事業の現状

問 事業ごとに目標値、指標を設定。正確な評価をするため、全事業にKPIを設定した。2年度のスタートだが、新型コロナナウイルス感染症の感染拡大の影響で事業が出来ないなど影響が出ている。

問 計画目標達成のため進む。婚活支援事業の現状

問 婚活支援事業の現状

問 婚活支援事業の現状



中間管理住宅（改修した旧入谷駐在所）

と課題は。

問 婚活事業の目標を結婚とした。2年度は1組が成婚。年齢的な面などで交際に至らない、活動

をしない人もおり、申込みも先着順から選択制にする。

問 総務常任委員会で提案をした中間管理住宅の現状と県の対応は。

答 入谷地区の旧駐在所を改修している。県の担当者も四万十町の情報を

持つっており情報交換をしたが、明確な返事はない。

教育環境

コロナ禍での学校運営は

教育長 教師の負担軽減のため全校に赤外線カメラを設置

問 コロナ禍での学校運営現状と課題は。

答 長期休業による学習の保障は夏休みの短縮、行事の精選で改善した。

問 今後に備えタブレット端末を整備し学習保障に備えた。朝の検温での教師

の負担軽減のため全校に赤外線サーモグラフィカメラを設置した。

問 全国的にオンライン授業が行われてきたが、顔の見える対面式で行う

のが良いと思うが。

答 対面式が良い。国はICT教育に力を入れて

問 オンラインと対面式をバランスよく取り入れていくのが良い。

問 児童生徒の学力の現状と対策は。

答 児童生徒の学力は全国・県との比較で特別低くはない。1元年度は全国・県と同程度である。

町の学力向上対策委員会を中心に、学習スタンダードや家庭学習の手引き

の作成、授業スタイルの統一、小中学校、切れ目

ない学習対策を講じている。

問 不登校児童生徒の現

問 友人関係や学力不振など様々な要因で不登校は多い。コロナ禍での集団学習への不安を訴える

家庭もあるが、予防策を説明し理解を得るよう各学校に伝えている。はま

ゆり教室、スクールカウンセラーや保健師と連携し対応している。行きた

くなる学校づくりに取り組んでおり、新規の不登校が減少するなど成果も

※KPI：Key Performance Indicatorの略。政策ごとの達成すべき成果指標。

ここが聞きたい

震災の検証

グリーンの法則（遡上等）を運用すべき

町長 対策本部は10mと放送するも町長「予測不可能」



津波を予測すべきでは。当時、情報が全く途絶状態、3時に津波到達6mしか情報が入ってこなかった。

8回連載の河北新報に町長は「5・5mの防潮堤もあるから、6mの津波なら大丈夫だろうとまだ危機感がなかった。」と記されていたが、私は信じられなかった。

津波の遡上・増幅・氾濫について、グリーン法則を知っているか。波高・海域幅・水深を基に計算して津波の高さを図る。

一般人は知らなくても、防災関係者は知っている当たり前のようだ。志津川湾の計測は。

手元に資料がない。泊崎から神割崎まで6km、深さ43m、黒崎まで7・8kmである。対策本部でもこの地形からの

専門家の方々の想定を前提として津波対策を

8回連載の河北新報に町長は「5・5mの防潮堤もあるから、6mの津波なら大丈夫だろうとまだ危機感がなかった。」と記されていたが、私は信じられなかった。

海から内陸へ津波が駆け上がる高さを「遡上高」というが、その大事なことを踏まえ、安心安全なまちづくりのためにも、検証結果をまとめ防災計画に反映すべきと思う。

マニュアルの想定を超える状況だったにも関わらず、後付けの専門家の資料と現場とは相反する。あなたも当時職員だったのに、第三者的に喋っているが残念である。

町民向けと観光客用の避難誘導標識を設置すべきである。

本年度予算で実施する。多言語標識もある。計画では徒歩避難だが、観光客を巻き込んでの訓練も必要では。

上りの山周辺の整備は、階段の設置も含めて検討。現段階では、志津川小に避難する計画。

※グリーンの法則について注釈：津波の高さは、海域幅の平方根に反比例し、水深の四乗根に反比例する。すなわち、ほかの条件が同じであれば、海域の幅が四分の一になると津波の高さが二倍になる。湾の地形がV字形になっているところでは、津波が幅の狭い湾奥に侵入するほど、海域の幅が小さくなり、水深も浅くなるので、湾奥近くでは津波は極めて高く増幅される。リアス式海岸などで入り組んだ地形の沿岸では津波が増幅するのはこのためである。

ハマレ歌津の南側工事 중이다が、利用計画は。談に来てもらいたい。

三島神社側1・2haスケジュールは。夏頃までと思う。

歌津はうに・あわび・ほたて・わかめ・かき・たこと美味しいものが沢山あり、地域交流の活性化に繋がる。

ハマレ歌津の南側工事 중이다が、利用計画は。談に来てもらいたい。

三島神社側1・2haスケジュールは。夏頃までと思う。

歌津はうに・あわび・ほたて・わかめ・かき・たこと美味しいものが沢山あり、地域交流の活性化に繋がる。

※本文は、原文のとおり掲載しています。

議会へのお願い

請願書

○請願 1の1

御前下地内における水害対策に関する請願書

【請願の要旨】

御前下地内の水路が震災前からの水路となっており、昨今の台風や短時間豪雨の度に溢れ、道路及び近隣店舗や倉庫に浸水していることから、早急に適切な大きさの水路への入替をお願い申し上げます。

請願者 有限会社 山藤運輸 代表取締役 佐藤 克哉 外24人
紹介議員 佐藤 正明

この請願書は、産業建設常任委員会へ付託されました。

案議 議審 3月臨時会

介護サービス改善

指定居宅サービス等の事業の人員・設備及び運営基準の一部改正。

主な内容として

- 利用者の人権の擁護、虐待の防止。
認知症グループホームの夜勤職員等の配置基準の緩和。
事業者のハラスメント対策。
業務継続計画等の策定、研修や訓練の実施の義務付け。
掲示物をファイル化。
ケアの質を維持しつつ、人材確保や職員の定着を目指し、1ユニットの定員を10人以下から15人までとする。

正算 補予 3月臨時会

新型コロナウイルス対応

てんこ盛り商品券精算

地方創生推進

まち・ひと・しごと創生 基金寄付3団体

（及川幸子議員）

コロナ対策は減額が多く見られ、これまでの事業数は、1次で16事業、2次で30事業を実施し、一般財源で2月は3800万円、交付金で3億400万円となり、過不足分を補正。

てんこ盛り商品券の実績は。

1億5千万円のうち42万円減額補正。

（今野雄紀議員）

志高魅力化事業と伝承館の整備に活用。

志高魅力化事業と伝承館の整備に活用。

志高魅力化事業と伝承館の整備に活用。

志高魅力化事業と伝承館の整備に活用。

志高魅力化事業と伝承館の整備に活用。

志高魅力化事業と伝承館の整備に活用。

志高魅力化事業と伝承館の整備に活用。

志高魅力化事業と伝承館の整備に活用。

総務 常任委員会

町民が安心して暮らせるまちづくりを

令和3年2月25日、役場庁舎において総務課危機管理担当職員から、消防・防犯体制、土砂災害への備え、地震・津波・原子力災害への備えについて、聞き取り調査をおこなった。

調査の目的

東日本大震災をはじめとする多くの災害に何度も見舞われてきた当町において、防災・減災への取り組みが極めて重要であることは論を待たない。その防災行政の現状と課題について調査する。

調査の概要

高台団地での生活において脅威なのが火災と土砂災害である。令和2年度に全ての消防設備の復旧が完了し、火災への備えは整いつつあるが、消防団員のなり手不足などの課題もある。また、町内には100カ所の土砂

災害警戒区域があるが、令和3年度にはさらに160カ所以上が追加される。必要な改修をおこなうとともに、適切な避難行動の周知を図る必要がある。

防犯という観点からは、特に徒歩通学へと移行していく中の通学路において、防犯灯の不足があってはならない。関係機関と連携して、町民が安心して暮らせるまちづくりを進めな

ればならない。

地震、津波への備えはこの10年間常に念頭においてまちづくりに取り組んできたが、原子力災害への備えはまだ万全とは言えない。今後、「原子力災害対策における広域避難等計画」の見直しがおこなわれるが、その内容を注視していく必要がある。

防災は幅広い分野であり、さ

らに詳細な調査が必要であるため、今後も調査を継続するものである。



産業建設 常任委員会

インフラ整備事業について

令和3年2月25日、役場庁舎において建設課職員から、橋梁長寿命化修繕計画について、聞き取り調査をおこなった。

調査の目的

東日本大震災から10年が経過し、被災した橋梁は新たに整備されたが、被災を免れた橋梁は老朽化が進み長寿命化に向けて修繕または架け替えが今後求められてくる。

令和元年の台風19号による暴風雨での河川の被害もあり、

橋梁をより適切に維持管理を行うために計画的なコスト削減への取り組みが不可欠となる。

よって、当委員会では、基礎的なインフラの一部である橋梁の現状と今後の保全の方法を検討し、安全性・信頼性を確保することを目的とし、調査を行うものである。

調査の概要

建設課担当者からの背景と今後の見通しの説明を受けた。111の橋梁があり、建設後50年を経過した高齢化橋梁は現在のところ30%であるが、20年後には約90%に達する見込みである。

日々の通常点検、5年毎の定期点検、災害時の異常時点検を通じ維持管理を行い健全度の把

握に努めている。

損傷・劣化が大きくなってから対策を実施する事後保全から、それらが小さいうちから対策を実施する予防保全へと移行することで、小規模補修低コスト化を目指すこととしている。

令和3年度は水戸辺川の最上橋と滝浜川の滝浜橋を修繕対象としているため、継続調査とする。



水戸辺川 最上橋

民生教育 常任委員会

子育て環境について

令和3年2月19日、役場庁舎において保健福祉課職員から、町の出生率向上の対策及び乳幼児・幼児の子育て環境施策について、聞き取り調査をおこなった。

調査の目的

本町では、東日本大震災以降、人口減少及び少子高齢化が加速度的に進展し、持続可能なまちづくりを目指すうえでの大きな課題となっている。また、その課題を解消すべく子育て支援や移住・定住人口の拡大に向けた施策を展開しているものの、人

口減少問題は歯止めが利かない現状である。

よって、子供を産みやすく、そして子育てしやすい環境を整えることが最重要課題であるとの考えから、町の子育て環境について調査をおこなうものである。

調査の概要

令和2年度は途中経過ながら、2月4日現在で入所児童は213人で、保留と待機児童は4人にとどまっている。教育・保育の無償化等により、利用希望児童の低年齢化が進んでおり、特に志津川保育所及び伊里前保育所において、定員を超える2歳未満児の利用希望が増加している。

育児相談は、令和元年は職員

56人で、119件の家庭訪問をおこなった。子育ての孤立を防ぎ子育てに必要な情報提供で、適切なサービスに結びつけ、地域の子どもが健やかに育成できる環境整備を図っている。

本町の出生率に関しては、令和元年度は59人で、年度ではらつきはあるものの減少が続いている。令和2年度は現時点で50人ととどまっており、出生率は1.30である。出生率向上のための施策として、特定不妊治療支援事業がある。治療に

要した費用から宮城県の助成額を差し引いた額に対し、町が1回あたり15万円を上限として助成する。令和元年度は9件の助成をおこなった。委員からは、出産祝い金を商品券から現金支給に、1子、2子、3子の出生の数での祝い金の増額など、出生率を高めるための提案もあり、町の最大の問題である少子化による人口減少の歯止め策について調査した。

わたしの意見 あなたの提言

皆さんの考えをお聞かせください。
投稿お待ちしております!! (400字程度)

「私が思っている」

戸倉荒町 佐藤 貴さん

現在、小、中、高校生の子供を持つ親として感じていることを述べたいと思います。

小、中学校に関しては、ガススクール構想により、一人一台のタブレット端末を整備したことはとても良い事だと思います。

今、めまぐるしく変化する情報化社会には端末機器を活用する事は必要不可欠ではないかと思うからです。最近では、実際に授業参観の時や家庭学習などで、端末を活用しているのを目にします。子供たちが端末の操作に迷う事もなく順応している姿には驚かされました。

しかし、学校や、学年によつては端末の活用方法にバラつきがあるようです。もっと積極的な端末の活用をお願いしたいと思います。

高校については、地元にある志津川高校への新入生が減少してきています。引き続き「南三陸町高校魅力化協議会」を中心に協議を重ねて頂き、高校が町に残る若い人の人材育成を担って、町に残る若い人が増え、さらなる町の活性化に繋がればと願っています。

子育て期間のなかで、3つの学校に通わせる大変な時期にもかかわらず、子供たちの未来を見据えられながら実感されているご意見、有り難うございます。

議会から

町、学校、PTA、議会が手を取り合い、まちの宝である子供たちのため、今まで以上の子育て環境を創っていきましょう。

町、学校、PTA、議会が手を取り合い、まちの宝である子供たちのため、今まで以上の子育て環境を創っていきましょう。

山内昇一副議長が表彰



令和3年2月9日、地域の振興発展に寄与した長年の功績が称えられ、山内昇一副議長が全国町村議会議長会から表彰状を授与されました。

編集後記

新型コロナウイルスワクチン接種が始まりつつありますが、全世界的な大企業ですが、当町でも初めてのことです。課題を解決しながら円滑に接種が行えるように準備が進められています。

また、東日本大震災から10年が経過しました。一部工事の遅れもありますが、これからはメンタルケアなどソフト面でのサポートがより重要になってきます。

2カ月後にはオリンピック・パラリンピックも制限付きですが開催される見込みで、県内でもサッカーの試合が予定されており、活気が出ることを期待しています。

議会も町民の皆様の声を反映させ、コロナ禍でも震災後のケアを踏まえ、明るい希望を見つけながら前進できる町づくりを進めてまいります。

倉橋誠司
議会広報特別委員会

委員長 後藤伸太郎
副委員長 須藤 清孝

委員 倉橋 誠司
佐藤 雄一
千葉 伸孝
菅原 辰雄

次回の定例会議は6月開催の予定です。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、傍聴の自粛をお願いする場合があります。

議会開会中はパソコン・スマホから、リアルタイムでご覧になれます。

配信映像はこちらから

